

25年11月分 プレカットの荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成25年 10月20日～ 11月10日

2. 調査実施方法

全国のプレカット工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
11月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) プレカット加工用部材の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/11月	12月	26/1月
仕入 動向	国産材製材品	43.8	18.8	△ 12.5
	外材製材品	25.0	6.3	△ 50.0
	構造用集成材	28.6	14.3	△ 35.7
消費 動向	国産材製材品	50.0	25.0	△ 18.8
	外材製材品	12.5	6.3	△ 50.0
	構造用集成材	28.6	14.3	△ 35.7
在庫 動向	国産材製材品	△ 18.8	△ 31.3	△ 43.8
	外材製材品	△ 12.5	△ 25.0	△ 37.5
	構造用集成材	7.1	△ 14.3	△ 35.7

仕入れは国産材製材品、外材製材品及び構造用集成材共に11、12月の増加が1月には減少に転じる。

消費も国産材製材品、外材製材品及び構造用集成材共に11、12月の増加が1月には減少に転じる。

在庫は国産材及び外材製材品は減少基調で推移、構造用集成材は11月の増加が12、1月には減

(2) プレカット工場受注動向 Weight. D. I.

品目	25/11月	12月	26/1月
受注	37.5	12.5	△ 18.8
加工	50.0	12.5	△ 31.3
受注残	31.3	0.0	△ 25.0

受注、加工及び受注残はいずれの品目も11、12月のプラスが1月にはマイナスに転じる。

モニターからのコメント

(加工用部材入荷動向) ・仕入れはスギ、ヒノキのコスト上がってきているので、上手に安く良いものをボリュームからめて仕入れる。外材は様子見で当用買い傾向強い。フル稼働で消費は多い。在庫は現状ボリュームを保つよう仕入れていく。仕入、消費、在庫とも冬場に向け減少傾向。運搬車両に窮屈感あり仕入が遅れ気味。

- ・国産針葉樹構造用合板の手配が深刻になっている。冬期に向け仕入れ調整の時期に入ってきた。
- ・WW集成平角は一部値下がり、今後の様子見多い。スギKD材、スギ集成管柱も入荷厳しく、価格は横ばい強含み。消費は10月ピークに月を追う毎に減少予想。特に1月は3～4%減と予想。在庫は10月をピークに毎月10%ずつ減少予定。2月を底に例年の50%程度まで調整予定。
- ・相変わらず国産材需要増加しており入手しづらい。受注多い。国産材で品薄傾向続くと予想。
- ・1月から雪のため仕入、加工及び消費共に減少する。在庫の調整も始まる。

(受注動向)

- ・消費税増税の駆け込みは続いている。フル稼働となっていくと考える。冬場に向け減少傾向。
- ・時期的な事もあるが12月中旬までの納品がピーク。天候不順で現場が遅れてきた。
- ・今年は昨年124%の実績で良好。その分来年の減少が気になる。今年の85%当たりを予想。フル操業状態続いているが工期に間に合わせるの一杯。